


(様式2)

## 放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・14〉	いわき市立	草野	小学校
〈実施日〉	平成 28年 7月 4日 ( 月 )			
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は ( ) に教科等を入れてください。			
1 理科	○ 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他 ( )	
〈実践内容〉				
【はじめに】	<p>本校では年間2時間を「放射線に関する学習」として学級活動に位置づけている。昨年度は、京都大学の幸浩子先生を講師にお招きし、上学年を対象に霧箱の実験や、放射線に関するクイズを通して放射線についての理解を深めた。下学年は担任が授業を進めている。</p>			
				
【1学年 いわき農産物PRキャラクター「アグリン5」を利用した授業実践】				
震災時、生まれたばかりだった子どもたちが今の1年生である。現在では震災の影響もほとんどなく、放射線関係で不都合を言う保護者もいない。放射線について知っている児童も少ない。そのため、発達段階や子どもたちのおかれている環境をふまえ、今回はいわき市における食の安全についての取り組みを取り上げ、いわき農産物PRキャラクターの「アグリン5」を利用した授業を行った。				
導入では「とまにゃん」の絵を見せた。見たことがあるか聞いたところ「ニュースで見たことある」「…とまとについてる？」と目にしたことがある児童も多くいた。その後、いわきサンシャインとまとのパッケージに「とまにゃん」が描いてあることを見せ「いわきのとまとがおいしいよ、安心・安全なものだよ」と伝えるキャラクターなんだねということ話を話した。なぜこのキャラクターができたのかを考えるなかで、大きな地震があったこと、事故が起きてたくさんの放射線が外に出ってしまったこと、いわきの野菜や果物が売れなくなってしまったこと、きちんと検査をして安心・安全なもの売っていることなどを確認した。授業の最後には、「とまにゃん」の色そめを行った。子どもたちからは「今度買い物に行ったときにとまにゃん見つけてみる」「ほかのキャラクターも見たい」「うちで聞いてみる」などの声があがった。				
〈成果〉				
○放射線等に関する知識を得ることができた。				
○震災後の食の安全についての取り組みについて、自分の生活にかかわることとして考えることができた。				
〈課題〉				
1年生の発達段階にあった授業内容・教材を考えるのが非常に難しかった。実際に授業をやってみても、地震と津波によって事故がおき、放射性物質が外に漏れてしまったということを理解するのは難しいようだった。放射線についての詳しい説明を行うことが現状にあっているかということも吟味しなければならない。現在の取り組みや、自分の生活にかかわることをどう学習内容に組み入れていけるか考えることも必要だと感じた。				
資料作成担当者職 (教諭) 氏名 ( 佐藤 由季 )	学校電話番号 ( 34-2203 )			

